

36期アジェンダ活動報告

(平成15年10月～平成16年9月)

1. 削減目標達成状況

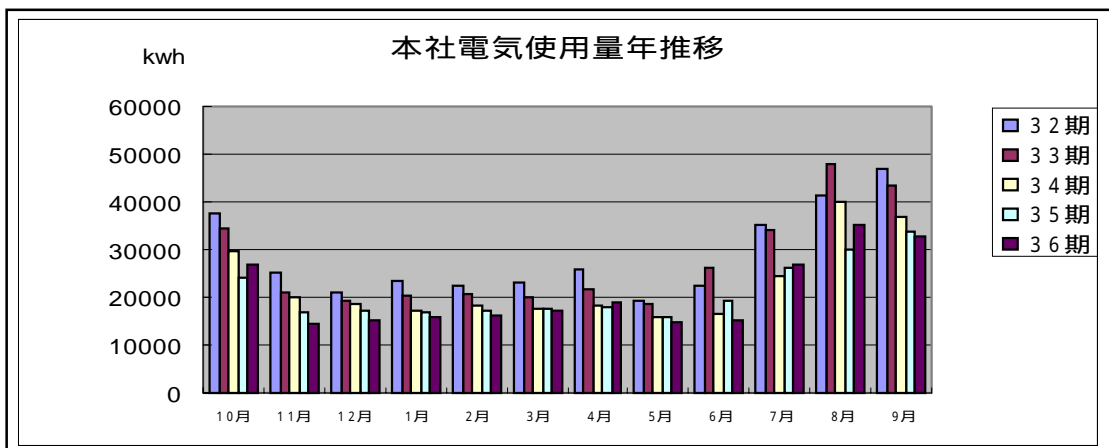
電気使用量

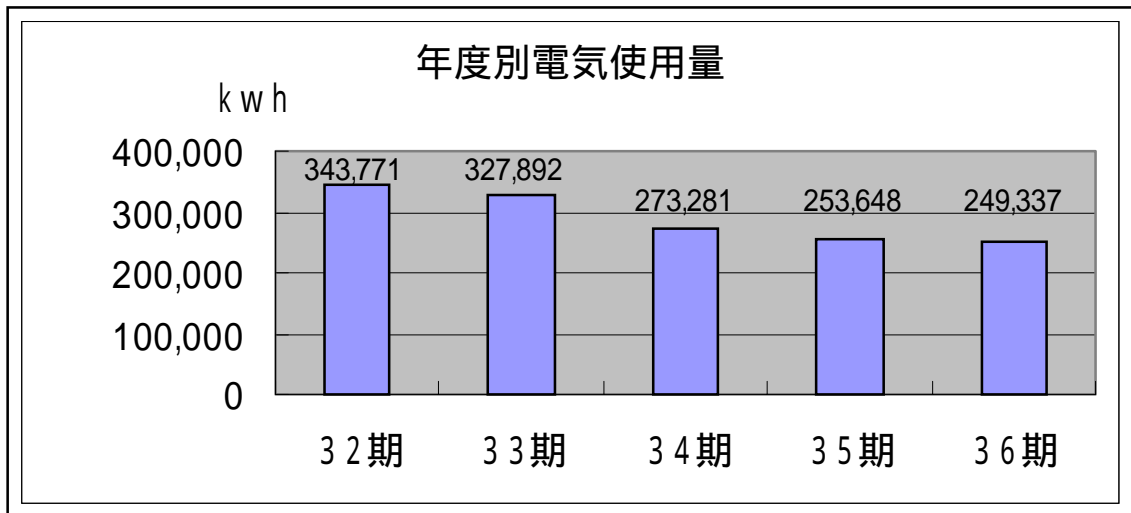
34期から35期に掛けて照明のインバーター化を完了しました。導入による削減見込みは24、000kwhでしたが、導入後の削減実績は、全体として74、000kwhを達成しました。そして今期においては、その効果維持と同時に、エアコン稼働時間コントロールによる電力量削減対策を講じました。

今期の電力量削減量は前年比4,311kwh、2%の削減であり、基準年度比94,434kwh、27%削減を達成しました。

単位:kwh

	32期	33期	34期	35期	36期
10月	37,430	34,341	29,549	24,115	27,047
11月	25,025	21,087	20,046	17,037	14,330
12月	21,060	19,369	18,686	17,274	15,113
1月	23,599	20,270	17,407	16,952	15,975
2月	22,585	20,684	18,155	17,291	16,314
3月	23,188	19,932	17,602	17,685	17,117
4月	25,824	21,580	18,234	18,072	18,976
5月	19,435	18,628	15,874	15,727	14,888
6月	22,346	26,304	16,651	19,206	15,004
7月	35,078	34,060	24,350	26,263	26,961
8月	41,435	48,023	39,850	30,100	35,020
9月	46,766	43,614	36,877	33,926	32,592
合計	343,771	327,892	273,281	253,648	249,337
対32期比		95%	79%	77%	73%
前年比			83%	93%	98%
削減量		15879	54,611	19,633	4,311
				照明インバーター化	





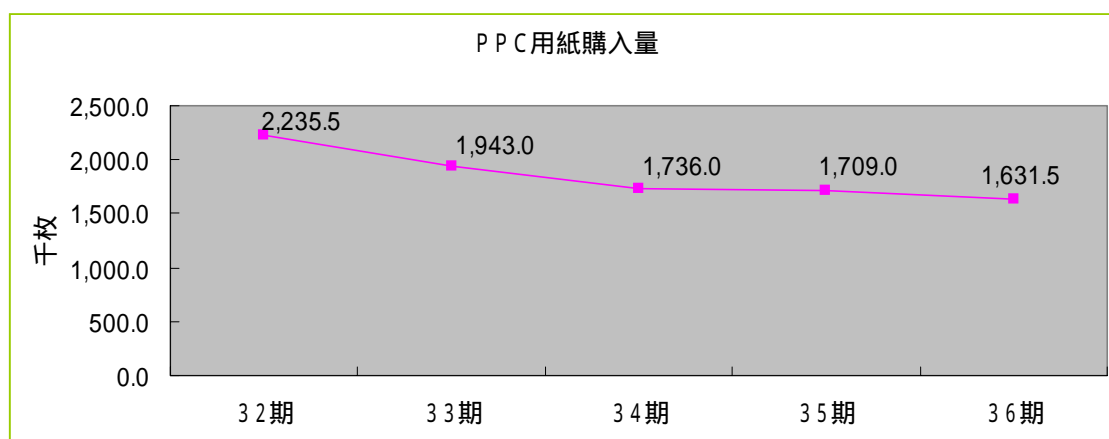
アースコンシャスシステム

エアコン稼働時間コントロールによる電力量削減策として採用した、アースコンシャスシステムは、空調機コンプレッサーを与えられた削減率のもと、停止させるマルチコントローラーを取付け、使用電力量を削減するシステムです。6月に設置を完了し、夏期に稼働しました。年間4000kwhの低減効果を見込んでいます。



コピー用紙購入量

36期用紙購入量は、1,631.5千枚であり、前期比4.5%、32期比27%減を達成しました。省資源意識の高まり、電子化等も進み日常業務の中に浸透したものと考えます。



ガソリン・軽油使用量

36期軽油使用量は、21,439ℓであり、前期比30%減、ガソリン使用量は、36,912ℓであり、前期比20%増となりました。これは、今期中において2台、小型ガソリン低排出ガス車（営業；1、技術；1）への入れ替えを実施したことに起因します。

ガソリン車比率は、56%、その内、低排出ガス車・低公害車導入比率は、33%に増加し、さらに小型化による燃費効率の向上も見られます。

	軽油				ガソリン			
	32期	34期	35期	36期	32期	34期	35期	36期
年間使用量(ℓ)	43,634	42,343	30,658	21,439	11,939	23,005	30,631	36,912
総走行距離(km)	626,315	618,912	455,202	298,875	125,341	263,604	406,106	505,708
台数	29	26	23	17	10	15	18	22
一台当km	21,597	23,804	19,791	17,581	12,534	17,574	22,561	22,987
一台当km/ℓ	14.4	14.6	14.8	13.9	10.5	11.5	13.3	13.7

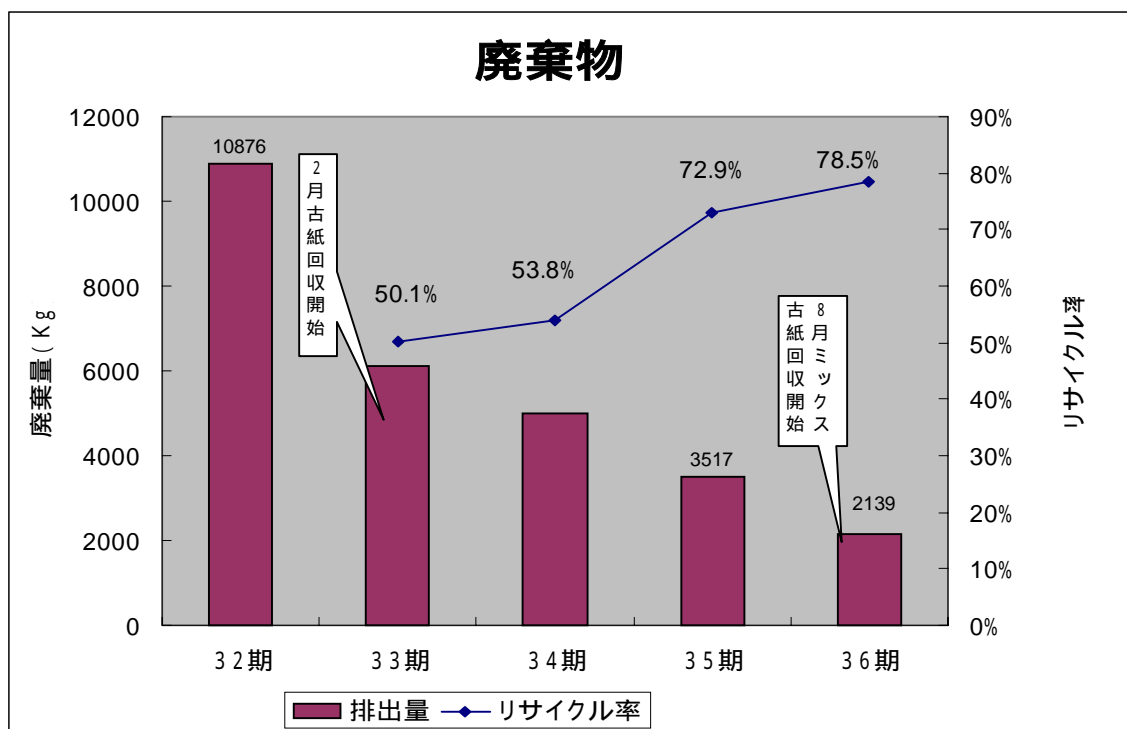
その他（一般廃棄物）

今期においては、ゴミ分別の徹底を図り、焼却ゴミの再資源化率の向上を目指してきました。

排出量は2,139kgで前期比40%、再資源化量は7,830kgで、リサイクル率は78.5%、前期比5.6%増を達成しました。 期末には、ミックスマグの回収を開始し、リサイクル率UPに取り組みました。

可燃ごみ排出量(平成11年10月から平成16年9月)

	32期	33期	34期	35期		36期			
	廃棄 (kg)	廃棄 (kg)	廃棄 (kg)	廃棄 (kg)	再資源化 (kg)	再資源化 (%)	廃棄 (kg)	再資源化 (kg)	再資源化 (%)
半期計	4779	3061	2465	1556	2300	60%	1077	3760	77.7%
年間量	10876	6132	5004	3517	9460	73%	2139	7830	78.5%
32期比	100.0%	56.4%	46.0%	32.3%			19.7%		



2. 二酸化炭素排出量

36期二酸化炭素排出量は、約289.4トﾝで前期比15.9トﾝ減、5%の削減実績を達成しました。これは、基準年比34.9トﾝ減、10.8%の削減率であり、数値目標を大幅に上回る実績となりました。

その内訳は、電力使用に伴うものが、前期同様最も多く全体の33.1%を占めています。前期比2%減という実績は、照明インバーター化が、上半期において有効であったことと、夏期の猛暑という環境の変化の中で、稼働中の空調機の効率的な制御（アースコンシャス）システムが、電力増加量を抑えた結果だと思われます。

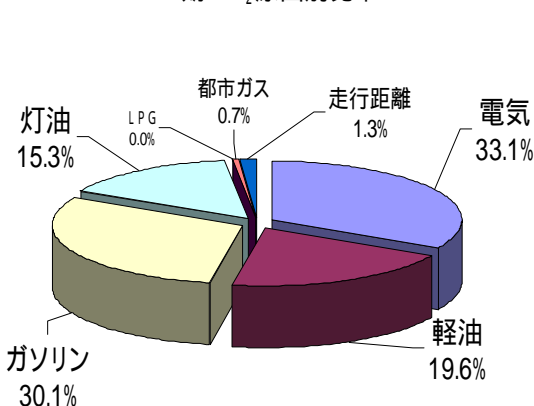
車両燃料（ガソリン、軽油）に伴う排出量が前期比9,561kg-CO₂減となり、走行に伴う排出は310kg-CO₂増となりました。これは、燃料使用を減らし走行距離を延ばしたということです。今期のテーマである「燃費効率向上」が少なからず実践された効果だと思われます。

36期二酸化炭素排出量の伸び

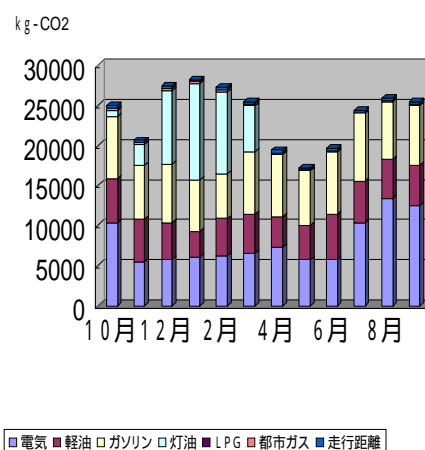
単位: kg-CO₂

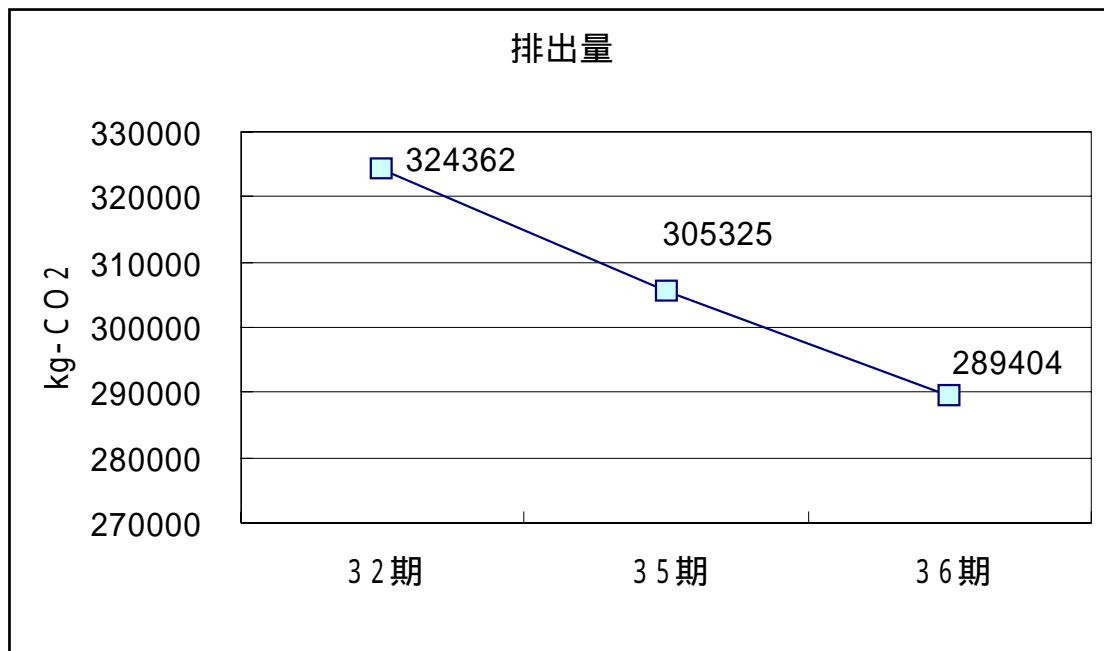
種類	32期	割合 (%)	35期	割合 (%)	32期比	36期	割合 (%)	前期比	32期比
電気	132008	40.7%	97401	31.9%	73.8%	95745	33.1%	98%	72.5%
軽油	115386	35.6%	81072	26.6%	70.3%	56695	19.6%	70%	49.1%
ガソリン	28161	8.7%	72250	23.7%	256.6%	87066	30.1%	121%	309.2%
灯油	46265	14.3%	49600	16.2%	107.2%	44247	15.3%	89%	95.6%
LPG	450	0.1%	538	0.2%	119.6%	0	0.0%	0%	0.0%
都市ガス	0	0.0%	1122	0.4%	-	1999	0.7%	178%	-
走行距離	2092	0.6%	3,342	1.1%	159.7%	3652	1.3%	109%	174.6%
合計	324362	100.0%	305325	100.0%	94.1%	289404	100.0%	95%	89.2%

36期CO₂原因別比率



36期二酸化炭素月別排出量





この計画は温室効果ガス排出について、エネルギー使用に伴うものをCO₂に換算し、その排出量を削減するものです。計画期間は、平成13年10月～平成18年9月の5年間で、当社の目標値は、二酸化炭素総排出量を308トンを減らすことです。(5%削減です)

前期において、基準年比(32期)5.9%のCO₂削減実績を達成しました。環境保全への関心が格段に高まり、この活動が通常業務と一体で進んでいる結果として、目標数値を超えたものと考えます。今期においてもそのパフォーマンスが、効果的、継続的に行われ、10.8%削減という数値評価に繋がったと思われます。

金沢市では、地球温暖化対策を推進するために、地域ぐるみで取り組む行動指針となる「金沢市省エネルギービジョン」を平成16年2月に策定しました。この中の温室効果ガス排出量の将来予測では、2000年までの10年間で19%増加しており、このまま何ら対策を講じないと2010年には30%増加することが懸念されております。このことは国における温暖化対策においても同様で、京都議定書における達成目標に遠く及ばない評価となっております。その意味でも、我が社における環境保全の取り組みは、一事業所として少なからず地域社会への貢献を自負するものです。

取り組み経緯

